◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

1	塀の中髪を伸ばせて卒業す
2	百千鳥会話の弾む立ち飲み屋
3	春眠や部屋いつぱいのドーパミン
4	春うらら君と過ごした五十年
5	四月や一喜一憂去り出合ひ
6	散る桜固き握手の上に乗り
7	春分の月の欠けたるあたり見る
8	多言語でお国自慢や花の宴
9	道すがら上野へ廻る花月夜
10	満開の花を支える枝の黒
11	春雨や眉間艶めく仁王像
12	掃除機の枕に迫る朝寝かな
13	咲くほどは散つてしまへり花の雨
14	その愚痴も三度蛙の目借時
15	落椿花弁散らさず朽ちにけり
16	ドジャースの帽子斜めに耕せり
17	春光や卓球場の赤い髪
18	声高に親を急かせる入学子
19	顔隠すほどの花束春惜しむ
20	明日閉ぢる著莪をひと夜の夢とせむ

◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

21	葉桜と　青葉香る　初夏覚醒め
22	デコピンの咥へるボール風光る
23	馴染みなれば田越しに遠見花見酒
24	花の宿いささか温き露天風呂
25	ボルタリング手足に春の息吹かな
26	田を返し目覚める土の黒々と
27	別れ霜未明の報に絶句する
28	もてなしの心に触れる徒遍路
29	白少し足してキャンバス春の空
30	紅枝垂れ妣（はは）の九品（くほん）の浄土かな
31	春の雪近道は坂バス乗り場
32	春の湖最終走者まつ子いて
33	春風の車体は子らの絵パッカー車
34	クワイ河マーチとともに春の土手
35	反りあがる城の石垣山桜
36	雨雫弾きて光る接穂かな
37	薄紅を受けし蛇の目や桜散る
38	施主の名の透けるぼんぼり春祭り
39	目借時富士山麓に鸚鵡啼く
40	ぼんぼりの明かりはんなり夕桜

◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

41 絵手紙にでかく筍“掘りに来い”

42 風を連れ心地良さげに舞ふ桜

43 咲き競い散るを競いて花が征く

44 花まつり天地も人も燃え上がる

45 ばさりとは散りきれぬ牡丹の自愛

46 クアックアッと烏姦し樟若葉

47 惜しげ無く振り払ひしや飛花落花

48 北窓開く並べ干すスニーカー

49 春暁や大物釣りの予感かな

50 春疾風海の匂ひと万博へ

51 遠吠えにそっと筆置く春愁

52 湯の宿へ雪解を待ちて峠越ゆ

53 むらさきの筑波嶺はるか葱坊主

54 補助輪の取れて軽やか風薫る

55 無音にて道路につもる花いかだ

56 若き日に焦がれた街へリラ招く

57 蜘蛛の巣のいつも真中に居る孤独

58 青空の飛行機雲と藤の花

59 君唄へ我は踊らむ花の下

60 春愁の体は椅子に密着し

◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

61 振動と量子力学花の声

62 桐箱にむすめの名前雛納

63 空仰ぎ万緑の待つ土筆かな

64 あぎとふの鯉壊しゆく花筏

65 何年を生きての今日か散る桜

66 大いびき横に聴いてる春の夜

67 あおとあを境目探す春の空

68 双蝶や野面（のもせ）の風に演舞せり

69 夜明け前なにも聞こえぬ彼岸かな

70 春嵐飛ばせあたしをあの日へと

71 くしゃみして涙目眩し花曇り

72 谷あいの二人静がいいと君

73 肩寄せて九戸一村山桜

74 花の下カメラに収めた妻の笑み

75 想ひ出に生くる男や花は葉に

76 丸ビルの二階のテラス春の昼

77 人見知りせぬ子猫とて貰ひ受く

78 野遊びの子等はいつしか風に翔び

79 花筏瞑りて近き浄土かな

80 新入りを連れて五月の秘密基地

◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

81 花筏古城の濠の厚化粧

82 子のスマホ逃水を撮る旅路かな

83 人の子と　競い高めよ　春麗ら

84 フジテレビ昭和時空や朧かな

85 疾る影空に燕の流線形

86 霾（つちふる）や黒夜にそびゆ大古墳

87 菜畑の上にふうはり春の月

88 コンペイトー噛めばほろほろ山笑ふ

89 葉桜や帯締めきりり萌黄色

90 春の雪明日は通院最終日

91 老いの家人形無くも桃の花

92 三叉路に迷ふ逃水捕らへけり

93 地底よりいのち貰ひし桜かな

94 陽炎や海の彼方は夢の国

95 ぶかぶかの学帽児童風光る

96 雨に咲き風に散りたる桜かな

97 たくさんの友新しき夏初月

98 ふり向けば浅き草むら雉走る

99 目が合ひしばかりに子猫うちの子に

100 母の勝ち遠足の日の象の尻

◆水明インターネット句会◆　令和七年四月

101	東西東西飲めや歌への花の宴	
102	口開けてアサリが笑う四月馬鹿	
103	大将は舟唄すさみ蒸鰈	
104	画家は今やつと筆取り風光る	
105	遠山の薄墨花の並木道	
106	山城やしばらく浸る花の道	
107	花あけび風にのりゆくリコーダー	
108	龍天に盆栽村はリニューアル	
109	つんつんと土突き生えるつくしかな	
110	南国の駅メロ流れ燕来る	
111	近傍も競う桜のここかしこ	
112	菜の花や川面に見ゆる鯉の群	
113	さみどりの雨の滴や柳の芽	
114	すべり台に立ちてさえずり近きかな	
115	夏はじめ水平線は模糊として	
116	着岸の船の一揺れ木の芽風	
117	代々と続く旧家の門桜	
118	清明の朝のびやかに床を出る	
119	春風や回廊の下を素通りし	
120	目を貸しし記憶あやふや目借時	